



勝 山 進

昭和18年11月9日生まれ

1 略 歴

昭和37年 新潟県立新潟商業高等学校卒業
昭和37年 株式会社日立製作所入社
昭和39年 日本大学商学部会計学科入学
昭和43年 日本大学大学院商学研究科会計学専攻修士課程入学
昭和45年 日本大学大学院商学研究科会計学専攻博士課程入学
昭和48年 日本大学大学院商学研究科会計学専攻博士課程単位取得退学
昭和48年 日本大学専任講師（商学部勤務）
昭和51年 日本大学助教授（商学部勤務）
昭和56年 日本大学教授（商学部勤務）
平成6年 博士（商学）取得 日本大学
平成15年 日本大学商学部長・同大学院商学研究科長
平成15年 日本大学理事
平成18年 日本大学副総長（研究担当）
平成21年 日本大学副総長・総長代理代行（学務担当）
平成25年 日本大学（商学部勤務）定年退職
平成25年 日本大学名誉教授

2 研究業績

① 主要著書

『現代簿記講義』中央経済社，昭和62年8月

『財務諸表会計論<第2版>』中央経済社，平成4年6月

『物価変動会計の展開』中央経済社，平成6年10月

『会计学』日本大学通信教育部，平成9年3月

編著：『環境会計の理論と実態 [第2版]』中央経済社，平成18年8月

② 主な共同執筆書

『環境会計の新しい展開』白桃書房，平成17年4月，山上達人，向山敦夫，國部克彦編著「第9章 環境会計と外部報告－制度会計報告と環境報告書」

『公共性志向の会计学』中央経済社，平成21年3月，石崎忠司，黒川保美編著「第7章 CSRと会計報告の課題」

『企業会計と法制度』中央経済社，平成23年4月，安藤英義，古賀智敏，田中建二責任編集「第18章 環境規制と環境会計」

3 学位

博士（商学）：平成6年7月・論文「物価変動会計の研究」

4 所属学会

日本会計研究学会	昭和43年6月～現在
会計理論学会	昭和61年9月～現在
日本社会関連会計学会	平成2年10月～現在
American Accounting Association	1971年8月～現在
Academy of Accounting Historians	1974年8月～現在
International Association for Accounting Education & Research,	2013年8月～現在
	他

5 私の研究

筆者の研究の歩みは，第2次大戦後のインフレーションによる資産再評価からスタートし，1970年代の為替レートの変動に起因する為替変動会計（外貨換算会計）とオイル・ショックに起因する物価変動会計を，1980年代後半からは，環境問題に係る環境会計と企業の責任に係るCSR会計であった。これらに共通することは，企業と社会との関係を会計学の観点から研究していることであり，これまでの一連の研究は，社会関連会計の研究といえる。現在の財務会計研究の動向は，従来型の財務的側面に加え社会関連会計のひとつの分野である環境的側面と社会的側面を統合する「統合報告」にある。こうした統合思考に多大な影響を与えたのが，GRIであり，GRIに理論的基礎を与えたのが，トリプルボトムラインである。その延長線上にあるのがIIRCのフレームワークである。このフレームワークの目的は，企業価値レポートと企業価値創造レポートである。価値創造レポートになり得るには，財務会計のみならず管理会計の力が必要であり，さらには，会計監査という3つの側面からの体系化した研究が必要となる。このようなことから，会計学研究は大きな変革期にあるといえる。